

「生ごみ分別・資源化モデル事業」の調査結果

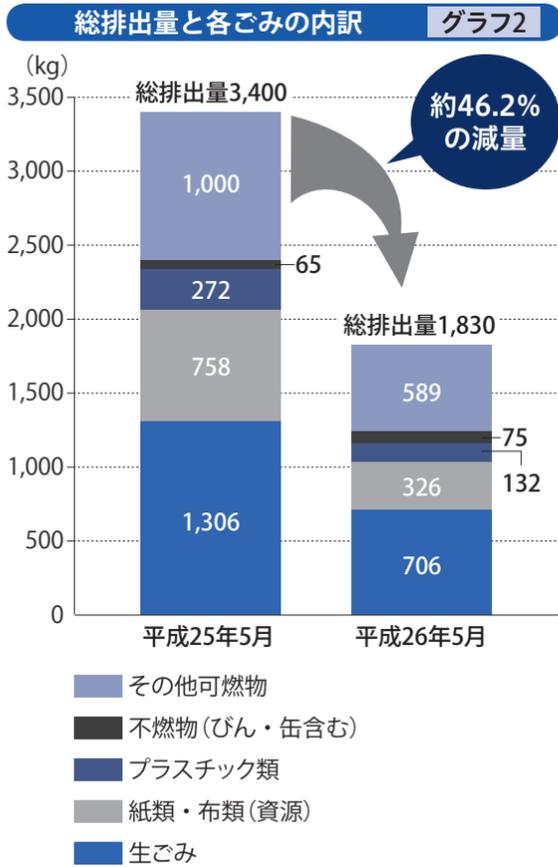
問ごみ対策課ごみ減量推進係・内線6757

燃やせるごみの減量には、家庭から出る燃やせるごみの約4割を占める、生ごみの資源化などの対策が不可欠です。

市は、大山自治会の皆さんと協働で、「生ごみ分別・資源化モデル事業」に取り組んできました。モデル事業が終了した現在も、引き続き大山自治会の皆さんには生ごみ分別にご協力いただいています。このたび、調査結果がまとまりましたので、お知らせします。

月2000kg以上の良質な生ごみを収集・資源化

この事業では、たい肥化できる生ごみを専用のバケツに分別



治会の皆さんの協力により、大

して収集し、貝殻・骨・種などたい肥になりにくい生ごみのみ、燃やせるごみとしてしています。本事業は季節によって変動はありましたが、全期間を通し、良質な生ごみを月に2000kg程度収集できました(グラフ1は平成25年度の推移)。事業期間全体では約76850kg(約7.7t)の生ごみが清掃工場に搬入されることなく、たい肥の発酵促進材としてリサイクルされました。本事業は、大山自治会の皆さんの協力により、大

燃やせるごみが減少

きな成果を収めることができました。たい肥は団地内の花壇に総合リサイクルセンターで作られたたい肥を大山団地の花壇に施肥。この事業の成果として「見える化」が図られています(左上写真)。

今回の調査では、前回に比べ、燃やせるごみの総量が大幅に減少しています(グラフ2)。昨年11月からの家庭ごみ戸別収集・有料化の実施や、大山自治会の皆さんが高い意識を持つてごみの減量に取り組んだことなどがその要因と考えています。

●モデル事業の概要 ▼モデル地区Ⅱ大山団地(都営上砂町1丁目アパート)1～13号棟▼対象世帯Ⅱ約550世帯(協力率71.4%)▼事業期間Ⅱ平成23年2月～平成26年3月(3年2か月)▼収集日Ⅱ毎週火曜日と金曜日(年末年始を除く)▼分別・収集方法Ⅱ協力世帯は配布したバケツを利用し、燃やせるごみと分けて保管した生ごみ収集方法Ⅱモデル事業と同様

みを生ごみ専用リサイクルカーの中に入れて投入。収集日にカートから収集します。

8月から大山自治会全体で実施へ

大山自治会では8月から、生ごみの分別を「生ごみ分別・資源化事業」として大山自治会全体に拡大して実施します。事業拡大後に想定される協力世帯は現在の約2.5倍となり、大山自治会全体で、大規模集合住宅としての生ごみ資源化に取り組むこととなります。

市は今後も、大山自治会における生ごみの分別収集の状況や、燃やせるごみの排出量などのデータを集め、生ごみ処理方法について研究を継続します。なお、本事業の状況は、「広報たちかわ」、市ホームページなどで随時お知らせします。

●生ごみ分別・資源化事業の概要 ▼対象地区Ⅱ大山団地(都営上砂町1丁目アパート)1～26号棟▼対象世帯Ⅱ約1470世帯▼収集日Ⅱ毎週火曜日と金曜日(年末年始を除く)▼分別・収集方法Ⅱモデル事業と同様

評価報告書を作成

市は、「生ごみ分別・資源化モデル事業」の検証を通じ、本市の生ごみ資源化の方向性を示した「生ごみ分別・資源化モデル事業」評価報告書を作成しました。本書は、市ホームページのほか、総合リサイクルセンター、清掃工場、市役所(環境対策課(2階)と市政情報コーナー(3階))でご覧になれます。

家庭ごみ指定収集袋の減免申請臨時窓口を10月中旬に開設

市は、生活保護や児童扶養手当の受給世帯など、一定の要件に該当する世帯を対象に、ごみ処理手数料の減免として家庭ごみ指定収集袋を交付しています。今年度(11月～平成27年10月)の減免申請臨時窓口を10月中旬に開設します。対象となる世帯の方には原則として申請と同時に袋も交付します。また、減免要件に該当する可能性のある世帯には9月下旬に申請書用紙を送付する予定です。なお、平成26年10月分までの減免申請は現在も受け付けています(すでに減免決定を受けた方を除く)。くわしくはお問い合わせください。問ごみ対策課ごみ対策係・内線6751

家庭での生ごみ資源化にベランダたい肥づくり

「たい肥の素」と衣装ケースを使用して、家庭のベランダなどでたい肥づくりをする方を引き続き募集しています。たい肥の素は市内の家庭から出されたせん定枝を収集・処理したものです。申し込んだ方には、たい肥の素を自宅までお届けします。申電話か、住所・氏名・世帯の人数・電話番号を書いてファクスまたはEメールで、ごみ対策課ごみ減量推進係・内線6757 Fax(531)5800 e gom itaisaku@city.tachikawa.lg.jpへ



スプレー缶・カセットボンベは穴を開けて「缶」の収集日に

先月と今月、「燃やせないごみ」に混入していたスプレー缶が原因で収集車内での火災事故が発生しました(下写真)。中身が残ったままのスプレー缶やカセットボンベは、収集・処理する過程で、爆発や火災事故が発生する原因となり、大変危険です。●ごみ出しの前に次のチェックを ▶缶を振って音を聞く(ガスが残っていると「シャカシャカ」と音がします)▶中身を使い切る▶火の気がない屋外で缶に穴を開ける▶「缶」の収集日に出す 協力をお願いします。問ごみ対策課(531)5518

